

平成28年度 県立多摩高等学校 学校評価実施報告書

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善策等		成果と課題	改善方策等
教育課程・学習指導	①学校全体での授業改善へ向けた実践的な取組みの充実を図る。	①生徒による授業評価の分析結果を迅速に伝える。	①-1生徒による授業評価の分析結果を迅速に伝えることができたか。 ①-2学習指導に対する生徒の肯定的割合が80%以上であったか。	①-1職員の72.2%が授業評価の分析結果を迅速に伝え、学校全体の取組として進んだ。 ①-2理数科目及び情報の指導では肯定的割合が70%台に留まったが、他の教科では目標値に達した。	○業務の効率化を進め、授業改善の方策の検討や校外研修等に参加できる機会を促進する。	(保護者) 進学に対する積極的な取組をされており保護者としても安心である。	(1)各グループや教科、特にキャリアガイダンスG、理科・数学との連携を密に取り、理数教育推進におけるJSTプログラムによる研修への教員参加や生徒の探究活動など、新たな取組みを進めることができた。「科学の甲子園神奈川県大会」への生徒の参加、「地域別学習成果発表会」における生徒の学習成果発表及び教員の研究成果発表や、1学年の総合的な学習における「科学的な探究活動」への取組みなど、今後、理数教育の推進を学校全体に拡大していくきっかけとすることができた。	○エントリー校の指標となる数値目標が下回った項目については授業展開の創意工夫など今後改善策について各教科単位の検討を促進したい。また、引き続きアクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開を進め、深い学びの実現に向けて、生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度の育成に向けた取組の充実を図る。
	②教科会での検討を踏まえ、多様な学びの機会を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の定着と発展・応用の伸長を図る。	②カリキュラム・マネジメントに係る職員全体研修の実施と共に、年間を通じた教科ごとの情報共有・授業改善の充実に取り組む。	②-1授業内容・進度、定期試験の共通化の取組みが一層進んだか。 ②-2カリキュラム・マネジメントに係る研修会が実施できたか。 ②-3全教員が他教科の授業互見など積極的に実施することができたか。	②-1授業内容の言語活動の充実に係る取組が50%を下回ったが、進度、定期試験の共通化については取組が進んだ。 ②-2年間を通じた教科毎の情報や授業改善の充実が職員の60%以上が肯定的だが、カリキュラム・マネジメントに係る取組では50%を下回った。 ②-3教員の90%が他教科の授業互見など積極的に実施した。	○数値目標が下回った項目については授業展開の創意工夫など今後改善策について各教科単位の検討を促進したい。また、引き続きアクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開を進め、生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度の育成に向けた取組の充実を図りたい。	(学校評議員) 具体的な調査等を踏まえて客観的に評価していくことは評価できる。	(2)学校説明会を8月・12月の2回開催。特に今年度から12月も午前・午後の2部制としたことから、のべ2,704人(昨年度2,394人)の参加があった。全4回実施した「多摩高へ行くこの日」には、のべ166人(昨年度107人)、学校へ行く週間には97人(昨年度48人)の参加があり、いずれも増加した。夏季休業中の学校見学は、昨年度と同様1日4回実施し、参加者はのべ1,160人(昨年度824人)であった。学校のHPは、月毎の行事予定の更新、部活動の実績等を適宜更新し情報発信を行った。	○グローバル教育の推進に向けた取組を進め、生徒の英語でコミュニケーションする姿勢や態度を育成する。 ○学校説明会における事前予約のシステム導入や、紹介する部活動の早期の決定・公表など、広報と併せた参加者のニーズへの対応を検討する。
	③アクティブ・ラーニングの視点から、3つの学びの過程を踏まえた授業の改善を図る。(習得・活用・探究の学習プロセスをおとした問題発見・解決力を育成する深い学びの過程、他者との協働や相互作用をとおして自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程、生徒が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程)	③生徒による授業評価やアクティブ・ラーニングの視点からの評価アンケート(仮称)を組織として分析し、生徒・保護者に公表するとともに、生徒と教員によるよりよい授業づくりの充実を図る。	③-1生徒による授業評価の項目4における「4かなり当てはまる」の回答率が5割以上となったか。 ③-2生徒によるALの評価の項目1及び2における《そう思う》の回答率が5割以上となったか。	③-1生徒による授業評価の項目4における「4かなり当てはまる」の回答率は大幅に5割を下回った。 ③-2生徒によるALの評価の項目1及び2における《そう思う》の回答率が6割以上となった。	(学校評議員) 本校での経験の浅い職員も多くなってきたが多摩高校の将来を見通し、教育の方向性をしっかりと話し合い勧めてほしい。	(3)平成30年度に授業時間を1単位あたり35分確保することをめざし、カリキュラム編成や日課の素案を作成した。11月に様々な選択肢を示して校内研修を実施し、その後の企画会議では、進路指導も見据えた具体的な対応策について検討を行った。また、国立教育政策研究所の指定研究である理数教育をはじめとして全教科の公開研究授業・研究協議を実施した。	(4)合計14回の事故防止会に加え、定期的な日常点検を行い自己防止に努めた。入学選抜に関しては、願書受付や学力検査・面接当日の業務内容、新たな採点方法などに関して合計6回の全体研修を実施した。	
	④科学との関わりを意識した課題解決的な学習活動の充実を図る。	④国の教育課程研究指定事業[理科教育]及び県立高校改革(I期)指定事業[理数教育推進]計画の着実な推進を図る。	④-1科学的な見方、考え方をより深めた科学リテラシーを育成・伸ばしていくため、日本学生科学賞やかながわ国際サイエンスフォーラム等への参加が促進できたか。 ④-2理数教育に対する生徒の肯定的割合80%以上であったか。	④-1生物部、数学研究会及び有志がチームを構成し科学の甲子園神奈川県大会に出場した。(参加生徒数は6名) ④-2理数教育に対する生徒の肯定的割合はどの項目についても50%を超えたが70%未満であった。	○科学的な見方や考え方について日ごろの授業の中でその重要性を周知させ理数教育推進に向けた肯定的な意見を80%に引き上げたい。	(学校評議員) 理数教育の推進など科学的な思考力・判断力・表現力が身に付いていくことはよいことだ。		

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善等		成果と課題	成果と課題
教育課程・学習指導	⑤生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とする。また、授業以外においてはその活用場面が得られるよう積極的に英語でコミュニケーションする姿勢や態度を育成する。	⑤-1英検、GETEC、TOEIC等の資格試験に係る周知と受験の促進を図り、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ⑤-2短期留学生の積極的な受け入れや部活動とおしした外国の高校生との交流の充実を図る。 ⑤-3スピーチコンテスト等に係る周知と参加の促進を図る。	⑤-1外部検定試験を活用した生徒は全体の5割以上となったか。 ⑤-2英検2級以上の生徒が増加したか。 ⑤-3短期留学生の受け入れが検討されたか。 ⑤-4スピーチコンテストへの参加ができたか。	⑤-1外部検定試験を活用した生徒は全体の5割には届かなかった。 ⑤-2英検2級以上の生徒数の増減は把握できなかった。 ⑤-3短期留学生の受け入れの検討は進まなかった。 ⑤-4スピーチコンテストへの参加ができたか。	○英検2級以上の生徒の把握を進めるとともに、GTEC受験の促進を図り、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ○スピーチコンテストへの参加を促進する。	(学校評議員) 留学や交流については難しい面もあるが、語学力をつけるなどのグローバル教育については取組を進めてほしい。	(5)学校評議員会を通じて、今後の学校運営協議会制度について検討を行った。学校説明会については午前と午後の参加を地区ごとに振り分けるなどの協力依頼により、午前中の混雑が多少緩和されたが、収容人数との関係からさらなる改善が必要である。	
生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任をわきまえた行動ができる姿勢や態度を育成する。 ②生徒一人ひとりに寄り添い、向き合う指導から、生徒の自律的な生活態度の育成を図る。 ③部活動への加入を励行するとともに、学校行事や生徒会活動などの一層の充実を図り、生徒の活動の場を拡大する。 ④学校行事や部活動をおし生徒の体力づくりを進めるとともに、生徒会や委員会など生徒自らの取組を教職員全員が支援し、安全で安心な学校環境の整備を図る。	①マナーアップ運動、登下校指導を実施し、マナーと社会性ある行動を身につけさせる。 ②学年集会や学校行事等を活用して生徒自らが考えて行動できる指導・支援をおして自主・自律的な生活態度や姿勢を身につけさせる。 ③生徒が部活動・行事等と学習を両立し、自他を尊重し豊かな経験が得ることができるよう指導・支援する。 ④心身ともに健康的な学校生活が実現できるよう学校内外の教育相談等の機能を活用・連携をおして生徒の支援を図る。	①マナーアップ運動等の取組により、生徒が恒常的に社会性のある行動がとれるようになったか。 ②生徒が自主・自立ある学校生活を送れるよう全教職員で指導にあたることできたか。 ③-1部活動加入率90%以上 ③-2学校行事等の生徒の満足度調査8割以上 ④-1教育相談等について情報提供をしていくとともに、心のケアが必要な生徒にはケース会議を開催するなど迅速に対応できたか。 ④-2保健室の利用状況などについて生徒のニーズにあったものになっているか。	①登下校中のマナーに関する近隣からの問合せは8件に留まり、生徒が恒常的に社会性のある行動がとれるようになった。 ②生徒が自主・自立ある学校生活を送れるよう全教職員で指導にあたることできた。 ③-1部活動加入率100%以上となった。 ③-2学校行事等の生徒の満足度調査では9割以上が肯定的であった。 ④-1教育相談等について情報提供をしていくとともに、心のケアが必要な生徒にはケース会議を開催し迅速に対応できた。 ④-2保健室の利用状況などについて生徒のニーズにあったものになっていると肯定的な意見が8割を超えた。	○立ち番指導を適切に行う。指導月間として、標語・ポスターなど生徒の自主制作呼びかけ、生徒自身の働きかけにより意識向上を図る。 ○生徒会活動の運営推進に関する補助・助言を促進し、各委員会の活動内容の反省に基づき活性化を図る。 ○部長会組織を充実させ、部活動加入の促進につなげる。 ○学年団、各教科、教育相談担当、保健室が一体となった生徒情報の素早い共有。	(学校評議員) 吹奏楽部や合唱部の活躍、新しい校舎など伝統と新たなものがうまく組み合わせられて創られていると感じる。社会で活躍している素晴らしい人材が多くいることを誇りに感じている。近隣に住んでいるのでこれからも多摩高を誇っていきたくて考えている。(保護者) 心配な生徒もいるとのことだが専門家の力も借りながら支援に取り組んでほしい。	(1)掲示物による啓発活動、および朝夕登下校時における立ち番指導により一部改善が図られた。今後は登下校が密集する時間帯における通学マナーの向上と自転車事故防止が課題である。 〔2〕生徒会と担当職員の定例の行事が必要である。 〔3〕適切に事前調整、計画立案実施ができたが引き続き部活動の充実が必要である。 〔4〕校内の連絡体制の強化、いじめアンケート、教職員への啓発研修などを実施し、情報共有を図り種々の問題に対応出来た。様々に事情を抱える生徒の課題への早期発見と迅速な対応が求められる。	○立ち番指導を適切に行う。指導月間として、標語・ポスターなど生徒の自主制作呼びかけ、生徒自身の働きかけにより意識向上を図る。 ○生徒会活動の運営推進に関する補助・助言。各委員会の活動内容の反省に基づき活性化を図る。 ○部長会組織を充実させる。 ○学年団、各教科、教育相談担当、保健室が一体となった生徒情報の素早い共有化を図る。
進路指導支援	①さまざまな学習活動を通して自然科学や科学技術に触れる機会を増やし全ての生徒が科学に対する興味・関心を高め科学的な思考力・判断力・表現力の向上を図る。	①-1総合的な学習の時間における課題研究に科学的なテーマを取り上げること推進する。	①自然科学系進学希望者を引上げることができたか。	①自然科学系進学希望者は横ばいであった。	○理数教育を推進させるとともに、課題研究の取組を通して自然科学系への興味関心を高めるとともに、理工系進学者への支援を図る。	(学校評議員) 学習指導要領の改訂やアクティブ・ラーニングに向けた取組などいろいろと努力されていると思う。	(1)各学年において、生徒の多様な進路選択に向けて進路説明会や講演会を行った。 1年:6回 大学生等講演会、進路講演会、社会見学、社会人出張講義、進路集会(2回)、2年:4回 学部学科説明会、進路説明会、大学出張講義、進路集会、3年:6回 進路説明会、センター試験説明会、キャリア講演会、進路集会(3回)	○学年別の模試の分析報告会の実施を検討するなどより多くの職員が参加しやすいような実施方法の検討を行う。

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善点等		成果と課題	成果と課題
進路指導・支援	② 自律的学習習慣の確立に向けた低学年次からの進路指導・支援を行う。	② 長期休業中の講習、土曜講習等の効果を上げるために、生徒のニーズに合わせた講習を提供し、受講しやすい環境を整える。 ②-1 三年間を見据えた進路指導をとおり、現役での進路希望の実現を支援する。 ②-2 模擬試験等のデータやデータ分析ソフトを活用したデータに基づく進路指導の充実を図る。 ②-3 キャリア教育実践プログラムの着実な推進を図る。	② 長期休業中の補習受講者が昨年度比で2割以上増えたか。	② 長期休業中の補習受講者は昨年度298名から584名となり前年度比でほぼ5割以上増えた。	○ 来年度、職員室前の質問スペースに電気スタンドや電気ストーブ等を設置するとともに、生徒が質問しやすい学習環境の整備・充実を図る。 ○ 学習計画表、学習記録表などを作成することで、1年次から進路実現を念頭に置いた学習習慣を確立できるように支援する。 ○ 学年別の模試の分析報告会の実施を検討するとともに、例えば報告会を学年会等に位置付けるなど、より多くの職員が参加しやすいような実施方法の検討を行う。	(学校評議員) 大学の合格実績はきちんと掲載されるよう実績の発信をお願いしたい。 (学校評議員) 進学希望が100%ということなので入学時の夢が膨らむよう協力してほしい。 (学校評議員) 高校教育はこれから詰め込み型ではなくなっていく。震災ボランティアなど積極的に取り組んでほしい。 (学校評議員) 選挙権の問題などの教育を従来の取組に加えていくことも大事だと思う。 (学校評議員) 合唱部やダンスドリル部には地域行事に参加いただき感謝している。	[2] 社会生活と関連付けたキャリア教育の実践のため、インターシップの情報提供および参議院議員選挙を利用した模擬投票を実施した。(インターシップ参加状況 17名(1年4名、2年4名、3年9名、模擬投票の投票率 84.6%(1年89.2%、2年71.2%、3年93.5%)) [3] 長期休業期間中に学習計画表、知層(学習記録表)を用い、学習習慣の確立に向けた支援を行った(1年(平均学習時間:夏期休業82.1時間、冬期休業41.4時間) [4] 模試結果を活用し、生徒一人ひとりの学習状況の把握と面談等による学習支援を行った。(模試試験回数:1年3回、2年3回、3年3回) [5] 進路通信や保護者向け進路説明会等を通じて、進路に関する様々なデータを生徒・保護者に提供した。(進路通信:1年3回、2年2回、3年8回、保護者向け進路説明会:1年2回、2年2回、3年1回) [6] 模試等の結果を分析し、当該学年の変化を分析するとともに、その情報を職員全体で共有するという点が不十分だった。 [7] 自習室・職員室前の質問スペースの環境整備が不十分だった。	来年度、職員室前の質問スペースに電気スタンドや電気ストーブ等を設置するとともに、生徒が質問しやすい学習環境の整備・充実を図る。
	③ -1 キャリア支援グループと学年が連携し、具体的な学習指導の対策を検討・実施するとともに進路に係る学年集会や面接指導等を活用した組織的なキャリアカウンセリング指導の定着を図る。 ③ -2 校内学力検討会、センター・模試分析会等の実施と大手三社の模試分析の担当者を招聘した定期的な学力分析会の計画的・組織的な実施の強化を図る。	③ -1 生徒の目標を高く持たせ、希望進路の実現が支援できたか。 ◎ 大学現役進学率を%から%へ上げる事ができたか。 ③ -2 学力向上進学校重点校エントリー校として指標1から4の達成目標に近づけられたか。 ③ -3 学力向上進学校重点校エントリー校として指標5の達成目標に近づけられたか。 ◎ 難関大学現役合格10名以上、スーパーグローバル大学(トップ型)の現役進学率25%以上	③ -1 生徒の目標を高く持たせ、第一希望への進路実現が支援できた。 ◎ 大学現役進学率を%から%へ上げる事ができた。 ③ -2 学力向上進学校重点校エントリー校として指標1〜4の達成は果たせなかった。 ③ -3 学力向上進学校重点校エントリー校として指標5の達成に至らなかった。 ◎ 難関大学現役合格10名以上、スーパーグローバル大学(トップ型)の現役進学率20%台に留まった。	④ 基礎学力の充実とともに、キャリア教育の視点を踏まえた生徒一人ひとりの能力を伸ばすための授業展開が図られたか。 ◎ 生徒学力調査(3教科)平均得点率8割以上を達成できなかった。	○ 来年度、職員室前の質問スペースに電気スタンドや電気ストーブ等を設置するとともに、生徒が質問しやすい学習環境の整備・充実を図る。 ○ 学習計画表、学習記録表などを作成することで、1年次から進路実現を念頭に置いた学習習慣を確立できるように支援する。 ○ 学年別の模試の分析報告会の実施を検討するとともに、例えば報告会を学年会等に位置付けるなど、より多くの職員が参加しやすいような実施方法の検討を行う。	(学校評議員) 大学の合格実績はきちんと掲載されるよう実績の発信をお願いしたい。 (学校評議員) 進学希望が100%ということなので入学時の夢が膨らむよう協力してほしい。 (学校評議員) 高校教育はこれから詰め込み型ではなくなっていく。震災ボランティアなど積極的に取り組んでほしい。 (学校評議員) 選挙権の問題などの教育を従来の取組に加えていくことも大事だと思う。 (学校評議員) 合唱部やダンスドリル部には地域行事に参加いただき感謝している。	[2] 社会生活と関連付けたキャリア教育の実践のため、インターシップの情報提供および参議院議員選挙を利用した模擬投票を実施した。(インターシップ参加状況 17名(1年4名、2年4名、3年9名、模擬投票の投票率 84.6%(1年89.2%、2年71.2%、3年93.5%)) [3] 長期休業期間中に学習計画表、知層(学習記録表)を用い、学習習慣の確立に向けた支援を行った(1年(平均学習時間:夏期休業82.1時間、冬期休業41.4時間) [4] 模試結果を活用し、生徒一人ひとりの学習状況の把握と面談等による学習支援を行った。(模試試験回数:1年3回、2年3回、3年3回) [5] 進路通信や保護者向け進路説明会等を通じて、進路に関する様々なデータを生徒・保護者に提供した。(進路通信:1年3回、2年2回、3年8回、保護者向け進路説明会:1年2回、2年2回、3年1回) [6] 模試等の結果を分析し、当該学年の変化を分析するとともに、その情報を職員全体で共有するという点が不十分だった。 [7] 自習室・職員室前の質問スペースの環境整備が不十分だった。	来年度、職員室前の質問スペースに電気スタンドや電気ストーブ等を設置するとともに、生徒が質問しやすい学習環境の整備・充実を図る。
地域等との協働	① 「多摩高へ行こうの日」を計画的に設置することで、開かれた学校づくりと多摩高の魅力や情報発信を行う。	① 保護者や地域の方々他校に開かれた授業公開を行うとともに中学生とそ保護者への情報発信を学校行事やホームページで行う。	① 5教科以上の他校参加型授業公開(研究協議会含む)が実施できたか。	① 5教科以上の他校参加型授業公開(研究協議会含む)が実施できた。	○ アクティブ・ラーニングを踏まえた授業改善を進め、先進的な高校への取組内容等の視察を促進する。		[1] 学校経営推進グループと連携し、H29,30年度入学生への教育課程について様々な視点から検討し編成を進めた。H29,30年度入学生の教育課程の決定と授業時数確保の視点に伴う日課の検討が必要である。	○ 教育課程と日課の決定については他グループとの協力により多角的な視点から検討する

視点	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	成果と課題
地域等との協働	<p>②ホームページの内容の迅速な更新に努め、タイムリーで魅力的なホームページの作成に取り組む。</p> <p>③学校運営協議会制度に係る組織体制づくりを進め、本校の取り巻く教育資源や人材などネットワークの拡大に向けた取組みの充実を図る。</p>	<p>②各グループが所管するホームページのコンテンツや内容の見直しをとおしてタイムリーで魅力的なホームページの作成に取り組む。</p> <p>③学校運営協議会制度に係る課題を整理し、趣旨に合った評価部会の立ち上げを実施する。</p>	<p>②各グループが所管するホームページの内容に創意工夫がみられたか。また、ホームページ内容の更新回数が増加したか。</p> <p>③学校運営協議会制度に係る課題を整理し、趣旨に合った評価部会の立ち上げが実施できたか。</p>	<p>②職員の半数以上がホームページの内容に創意工夫が見られたとしており、ホームページ内容の更新回数は増加した。</p> <p>③学校運営協議会制度に係る知識、理解は進んだが、課題整理には至っていない。また、評価部会の立ち上げは実施できていない。</p>	<p>○各グループ・教科と連携協力して特色ある教育活動をホームページを通じて情報発信の充実を進める。</p> <p>○学校運営協議会制度における評価部会立ち上げに向けた準備を進める。</p>	(学校評議員)	<p>〔2〕生徒による授業評価では、各教科へのフィード・バックを早くするよう努めた。また、生徒への公表資料を改善し、後期評価を前期評価と併せて見やすくした。教育課程の決定と授業時間数確保に伴う日課の検討が課題である。</p> <p>〔3〕習熟度別学習を数学Ⅱに加えて数学Bでも実施し、授業クラス編成の際に理系進学希望の軸を加え、効果を高める工夫をした。習熟度別学習や少人数学習のあり方について検討が必要である。</p> <p>〔4〕曜日バランスと時数確保に努めた。</p> <p>〔5〕管理・点検の方法を改善し作業を慎重に行い事故防止に努めた。</p> <p>〔6〕夏季休業中の補習・講習では受講の環境整備を行い受講者累計が前年の298名から584名と倍増した。</p> <p>〔7〕土曜講習では前年より3講座増え受講者累計が前年の90名から188名と倍増した。</p>	<p>○複数週編成の時間割編成作業の他校の例を参考に、本校の編成に適合する方法を検討する。</p>
学校管理 学校運営	<p>①企画会議と各グループとの相互のコミュニケーションを図り自発的な人材の育成をとおして全職員の経営参画意識を高める。</p> <p>②授業の質と量の確保等、喫緊の課題を職員全体で共有し、平成30年度入学生に向けて、課題解決の方向性を検討する。</p> <p>③校舎の改築工事に伴う校舎内外の環境整備に努める。</p> <p>④県費・私費の計画的、効率的な予算執行に努め、業者選定の適切な事務手続きの徹底を図る。</p> <p>⑤教育公務員としての高い倫理意識と法規法令遵守を徹底し日常点検を通して事故の未然防止に全力で取り組む。</p>	<p>①学校教育計画に基づき、各グループが組織の目標を設定し中間及び年間の評価の総括を実施する。</p> <p>②-1喫緊の課題を解決するための校内組織体制の確立を図る。</p> <p>②-2学年や学期、月ごと等に授業時数の実績の管理や学習の状況の把握を詳細に行い授業時間確保を図る。</p> <p>③生徒への教育活動や安全に配慮し改築工事に伴う諸課題や引越し等の適切な計画と円滑な実施をする。</p> <p>④生徒への教育活動や安全に配慮し、改修工事に伴う課題や引越し等の適切な計画と円滑な実施をする。</p> <p>⑤定期的な日常点検を確実にを行い、職員一人ひとりの事故防止への意識の向上に努める。</p>	<p>①企画会議を中心に組織間の連携を図りつつ、カリキュラム編成や年間行事、授業日課等について具体的な検討が行われたか。</p> <p>②-1喫緊の課題を解決するための校内組織体制の確立できたか。</p> <p>②-2授業時間を確保できたか。</p> <p>③各グループ及び事務室等が連携して校舎改築を円滑に進めることができたか。</p> <p>④-1県費・私費の予算や決算、執行、また業者選定等が適切に行われたか。</p> <p>④-2公費私費の適切な予算執行が図られたか。</p> <p>⑤-1丁寧な窓口対応や電話対応に努めることができたか。</p> <p>⑤-2施設・整備の日常的な安全点検をとおし迅速な修繕対応に努められたか。</p> <p>⑤-3入学者選抜業務事故ゼロを達成できたか。</p>	<p>①企画会議を中心に組織間の連携を図りつつ、カリキュラム編成や年間行事、授業日課等について具体的な検討が行われた。</p> <p>②-1喫緊の課題を解決するための校内組織体制の確立ができたとする職員は4割台に留まった。</p> <p>②-2授業短縮や行事運営の改善などによって授業時間の確保を促進した。</p> <p>③新校舎準備委員会の活動が進み各グループ及び事務室が連携し校舎改築や引越作業が進んだ。</p>	<p>○各グループ・教科と協力して、年間行事計画を、将来を見通しながら、継続的な計画・立案を図る。</p> <p>○授業時間の確保と各種行事とのより適切な時間バランスの検討を進める。</p> <p>○新校舎の清掃・美化を推進する。</p>	<p>(学校評議員) 不祥事防止に係る日常点検チェックシートの取りまとめについては男女別集計結果についても分析してほしい。</p>	<p>〔1〕行事と学習活動のよりよいバランスを検討し、従来通り、生徒の積極的な学校生活の参加を図った。○授業時間の確保と各種行事とのより適切な時間バランスの検討することが課題である。</p> <p>〔2〕来年度予定の引越を視野に、計画的な予算の配分を行い、執行状況の綿密なチェックを行った。各グループ・教科の予算配当の検討と、適切な執行の慎重なチェックが必要がある。</p> <p>〔3〕新校舎準備委員会と連携し、引越計画を進め、既存棟の清掃美化を美化委員と共に図った。</p> <p>〔4〕生徒、保護者に奨学金の説明会を開催し、手続きの円滑化を図った。</p> <p>〔5〕避難訓練を通して、防災意識を高めた。訓練内容を工い、生徒の防災意識を一層高める。</p> <p>〔6〕地域貢献活動や、部活動の他校交流でボランティア意識を高めた。</p>	<p>○各グループ・教科と協力して、年間行事計画を、将来を見通しながら、継続的な計画・立案を図る。</p> <p>○予算請求内容を洗い直し、学校全体にとって優先順位の高いものを精選して、予算案作成を図ると共に執行事務の改善を検討する。</p> <p>○十分な情報収集を行い、防災訓練の実際的な効果を検証して、計画に活かす。</p>